

# 百々読みとりおけいこ⑨（低）ねん くみ 名まえ（）

地名（ばしょの名まえ）のはなしをしてみましよう。

このあたりはもともと「南花山」あるいは「西花山」といっていたそうなのですが、さむらいのよのなかになると「西山」あるいは「小野西莊」ともよばれていたそうです。

一六一三ねんの比留田家文書では「西山」とかかれていますが、一六七六ねんのものでは「西之山」とかかれていて、一七〇〇ねんの山城国郷帳では「西野山」となっています。ということで、三百ねんまえにはすでに「西野山」とよばれていたのです。

百々という名まえは川の水が山科川にドドッとながれおちるおとからきているという話もあります。

中臣町は、おおむかしに力をもつていた中臣氏とかかわりがあるといわれています。ちなみに、中臣いせきではすばらしい石のナイフがみつかっています。一万年もまえから人々がすんでいたのですね。

山田という名は一九三一ねんに、このあたりが「京都市」になつたとき、つけられた名だそうです。山に田んぼがあつたので山田なのですが、そのときは人がすんでいなかつたために「山田町」とはいわないで「山田」でおわつていたそうです。

中畑町や南畑町は、田んぼではなく、畑が多いばしよで、しかもそのころすでに人がすんでいたのだろう、とわかりますね。でも、もしかすると、おおむかし力をもつていた秦氏がすんでいたのかもしれません。そういうばしよは「畑」というじがつくことが多いからです。右京区の梅ヶ畑や北区の雲ヶ畑などがそうなのです。

おんごくサイン→

①なんのはなしでしよう？（）

②西野山をはじめはなんとよんでいたのでしょうか？「つかきましょう。」

③地名のうつりかわりを知るのにでしらべていますか？（）

④西野山といいはじめたのはどのくらいまえですか？「つかきましょう。」

⑤中臣町はなにとかかわりがあるのですか？（）

⑥中臣いせきからなにがみつかっていますか？（）

⑦山田はなぜ山田町とつけられなかつたのですか？（）

⑧おおむかし力をもつていたのはなに氏？（）

（）氏と（）氏

⑨あつているものに○をつけましょう。

（）百々は山くずれのおとからついた名まえだ。

（）山田さんが山田にたくさん住んでいた。

（）ここにも秦氏がいたかもしれない。

⑩おもつたことを五行でまとめましょう。

できばえは？



校区にまつわる地名の話をしてみましょう。

古くは南花山あるいは西花山といつていたそうなのですが、中世になると西山、あるいは小野西莊ともよばれていたそうです。

慶長十八年（一六一三）の比留田家文書では「西山」と書かれていますが、延宝四年（一六七六）の文書では「西之山」と書かれていて、元禄十三年（一七〇〇）の山城国郷帳では「西野山」となっています。ということです。

七世紀に「西野山」という地名が確立したといわれています。

校名である百々は川の水が山科川（旧安祥寺川）にドツと流れ落ちる音からきているという説もあります。

中臣町は、古代豪族の中臣氏とかかわりがあるといわれています。ちなみに、中臣遺跡は旧石器時代から奈良時代までの複合遺跡で、すばらしい石のナイフが出土しています。一万年も前から人々が住んでいたのです。

山田という地名は昭和六年（一九三一）に、この辺一帯が京都市に編入された時、つけられた地名だそうです。文字通り山地に田んぼがあったので山田なのですが、その時点で人がすんでいなかつたために「山田町」とはいわないで「山田」でおわっていたそうです。

中畠町や南畠町は、田んぼではなく、畠が多い場所でしかもそのころすでに人が住んでいたのだろう、と想像できますね。でも、もしかすると、古代豪族の秦氏が住んでいたのかもしれません。そういう場所は畠の地名がつくことが多いからです。右京区の梅ヶ畠や北区の雲ヶ畠など各地にその例があるのです。

音読サイン→

① 何の話でしよう？

（ ）  
② 西野山一帯をはじめはなんと呼んでいたのでしょうか？二つかきましょう。

（ ）  
③ 地名のうつりかわりを知るのにでしらべていますか？

（ ）  
④ 西野山と言い始めたのは何世紀ですか？「

（ ）  
⑤ 中臣町は何とかかわりがあるのですか？

（ ）  
⑥ 中臣遺跡からなにが出土していますか？

（ ）  
⑦ 山田はなぜ山田町とつけられなかつたのですか？

（ ）  
⑧ 上の文に出てくる古代豪族は何と何？

（ ）  
⑨ あつてているものに○をつけましょう。

（ ）  
⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

できばえは？



校区にまつわる地名の話をしてみましょう。

古くは南花山あるいは西花山といつていたそうなのですが、中世になると西山、あるいは小野西莊ともよばれています。

慶長十八年（一六一三）の比留田家文書では「西山」と書かれていますが、延宝四年（一六七六）の文書では「西之山」と書かれていて、元禄十三年（一七〇〇）の山城国

郷帳では「西野山」となっています。ということです。七世紀に「西野山」という地名が確立したといわれています。

校名である百々は川の水が山科川（旧安祥寺川）にド

ドッと流れ落ちる音からきていると説もあります。

中臣町は、古代豪族の中臣氏とかかわりがあるといわれています。ちなみに、中臣遺跡は旧石器時代から奈良時代までの複合遺跡で、すばらしい石のナイフが出土しています。一万年も前から人々が住んでいたのです。

山田という地名は昭和六年（一九三一）に、この辺一帯が京都市に編入された時、つけられた地名だそうです。文字通り山地に田んぼがあったので山田なのですが、その時点で人がすんでいなかつたために「山田町」とはいわないで「山田」でおわっていたそうです。

中畠町や南畠町は、田んぼではなく、畠が多い場所でしかもそのころすでに人が住んでいたのだろう、と想像できますね。でも、もしかすると、古代豪族の秦氏が住んでいたのかもしれません。そういう場所は畠の地名がつくことが多いからです。右京区の梅ヶ畠や北区の雲ヶ畠など各地にその例があるのです。

音読サイン→

① 何の話でしよう？

② 西野山一帯をはじめはなんと呼んでいたのでしよう？二つかきましょう。

③ 地名の移り変わりを知るのに何で調べていますか？

④ 西野山と言い始めたのは何世紀ですか？

⑤ 中臣町は何とかかわりがあるのですか？

⑥ 中臣遺跡からなにが出土していますか？

⑦ 山田はなぜ山田町とつけられなかつたのですか？

⑧ 上の文に出てくる古代豪族は何と何？

⑨ あつてているものに○をつけましょう。

（ ）百々は山くずれの音からついた名前だ。

（ ）山田さんが山田の地にたくさん住んでいた。

（ ）ここにも秦氏がいたかもしれない。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

できばえは？

